

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.106 (2025.1.27)

令和6年度スローガン
過去最高業績への挑戦
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

「歴史から学ぶ経営者の心構え」と題した講演から先月は平井弥之助氏を紹介しましたが今回は木村強（つよし）という人をご紹介します。皆さんは東南アジアの国ブルネイをご存知でしょうか。赤道が通るボルネオ島の北部にある現在人口 46 万人の小国で、15 世紀にはポルトガル・16 世紀にはスペイン・オランダの植民地に、そして 18 世紀終わりには英国の植民地となりました。英国植民地であった 1929 年に石油が発見され 1930 年代に多くの油田が開発、第二次世界大戦がはじまって日本軍がイギリス軍を排除した結果、1942 年から終戦の 1945 年までの約 3 年間、日本はブルネイを「ブルネイ県」として統治しました。戦後は再び英国の統治下に戻りますが 1984 年に英国から独立しています。日本がブルネイを統治した 1942 年にブルネイの県知事に着任したのが木村強氏でした。木村氏は宮城県栗原市栗駒出身で旧制築館中（現築館高）から中央大法学部に進学、宮城県庁に務めていた時に戦争が始まり、県庁では商工課長をしていた 41 歳の時に旧陸軍の行政官としてブルネイ県知事に就任しました。当時欧米の植民地になると奴隷的に扱われ搾取されるのが常識でしたが、木村氏はブルネイを日本の国益だけを考えて統治するのではなくブルネイの自立と発展にも力を注ぐことが重要だという以下のような信念がありました。①日本人の言動が後世に笑われたり、批判されたりしないように品位を保って統治する ②日本の国際的信用を高めるために大事な今は今ではなく未来であり、目先の利益のための搾取などしない ③深い信頼関係を築くことでブルネイが自立発展し両国が繁栄する



ブルネイ国会議長に招待された木村（前列左）＝1964年4月2日

木村氏は現地で天然ゴムが採れることに注目し、貧しい国だったブルネイを経済的に自立させるため、工場を建設し現地の人を雇用して賃金を払いました。またブルネイ王室には敬意を持って接し、これにより国王や側近は日本人に対して親近感を持ったのです。木村氏は王様から何か希望はあるかと問われ、国情に詳しい人を秘書として迎えたいと答えました。秘書となったのは国王の弟(当時 26 歳)で頭脳明晰な好青年でした。こうして木村氏と王様の弟は一緒に仕事をするようになりました。木村氏の任期は僅か 1 年程でしたが国民からは絶大な信頼を得ました。その 1 年でブルネイの生活基盤が激変し国の基礎ができた奇跡の 1 年となったからです。木村氏がブルネイを去る時には送別会が催され、ブルネイ人の幹部も木村氏さんも男泣きしたそうです。昭和 39 年にブルネイに招かれ再会を果たした際の写真が右上のものです。

日本は長年にわたりブルネイの最大の貿易相手国であり、現在も液化天然ガス（LNG）の輸出総量の約 6 割が日本向けです。東日本大震災の際にはブルネイ政府から 1 0 0 万米ドルの義援金や、民間から多数の支援と寄せ書きを受けています。日本が今でもブルネイから尊敬されているのは、木村氏の以上の様な行いが有ったことによるものです。感謝！！

湯沢商工会議所新年祝賀会



1/10 湯沢グランドホテルで約 150 人のご来賓・会員が参加して開催されました。開

演に先立って、秋田住みます芸人「チェス」と「きり亭たん方」の皆さんによるお笑いが有りました。今年は明るく笑って過ごせる一年であって欲しいと思



中央要望会

1/21～22 と「東北中央自動車道新庄・湯沢間」早期全線供用開始

要望の為、財務省・国土交通省・内閣府を訪問しました。地元からは湯沢市長・東成瀬村長・羽後町議会議長など総勢 20 名を超える要望団でした。自民党御法川先生にもご対応頂き力強く応援して頂きました。



あきた建設産業女性交流会



1/22 一般社団法人クローバーの会（あきた建設産業女性の会）の総会及び交流会が秋田市内で開催され、パネルディスカッションの



パネリストとして当社総務部の高瀬主任が登壇。当社の様々な取り組みを紹介してもらいました。